

総合評価落札方式の制度設計に関する一考察

長崎大学大学院 学生会員○古谷 隆之
長崎大学工学部 正会員 坂本 麻衣子

1.はじめに

近年わが国では、公共工事に関する問題である談合、不良・不適格業者の参入、発注者の能力差、ダンピングの増加等の品質低下が懸念されている。公共工事の品質確保の促進に関する基本的事項を定めることで、公共工事の品質確保の促進を図っており、国民の福祉の向上及び国民経済の健全な発展を目的に公共工事の品質確保の促進に関する法律が平成17年4月1日施行された。公共工事の品質確保の促進に関する法律により、公共工事の発注は総合評価落札方式によることが原則とされたことから、全国の市町村で国や都道府県の取り組みを参考として、段階的に総合評価落札方式の導入検討や試行実施が行われている¹⁾。総合評価落札方式は、公正な競争を促進し、談合を防止すると同時にダンピング入札に対する工事品質の確保を図るために導入された。入札金額にのみに偏らない評価を行うことで優良な業者の落札機会を増加させ、良質な施工に対するモチベーションを高める好循環を形成する有効な手段であると考えられている²⁾。総合評価落札方式は、価格と品質を数値化した評価値（標準点+加算点/入札価格）の最も高い業者を落札者とし、総合的に優れた業者を選定する方式である。本研究では、長崎県の総合評価落札方式に着目によって落札された公共工事の入札時の各指標（落札率・加算点）と工事成績評価に着目し、現状の総合評価落札方式の制度的検討を行う。

2.分析

森本ら³⁾は四国地方整備局工事結果データを用い、被指名実績と工事成績評価との関係について統計分析を行っている。本研究では、平成19年～平成21年の長崎県の総合評価落札方式における工事案件（68件）を対象に、工事成績評価と落札率（落札金額/予定価格）、加算点（加算点の満点×評価項目の点数/評価項目の配点合計の満点）との関係性について統計分析を行う。

2.1 工事成績評価

工事成績評価は、公共工事に対する市民の信頼を確保し、請負業者の適正な選定や指導育成を図り、工事の質的向上を図ることを目的としている。表-1に示す

ように、工事が完成した段階で、発注者が施工体制、施工状況、出来形及び出来ばえ等に加え高度技術力、創意工夫、社会性等を採点する。なお本研究では、工事成績評価の点数が高いことが、公共工事の品質が高いものと仮定して分析を行うこととする。

表-1 工事成績項目別評定点⁴⁾

評価項目	
1.施工体制	65点±加減点
2.施工状況	
3.出来形及び出来ばえ	
4.高度技術力	/7.8点
5.創意工夫	/5.4点
6.社会性等	/6.4点
7.法令遵守等	0～-20点
評定点合計	/100点

1 案件に対して参加業者の入札金額と加算点を順位付けし、落札業者の入札金額と加算点の順位のみをまとめたものを図-1に示す。図-1より、1案件に対して入札金額よりも加算点の順位が高い業者が落札していることがわかる。

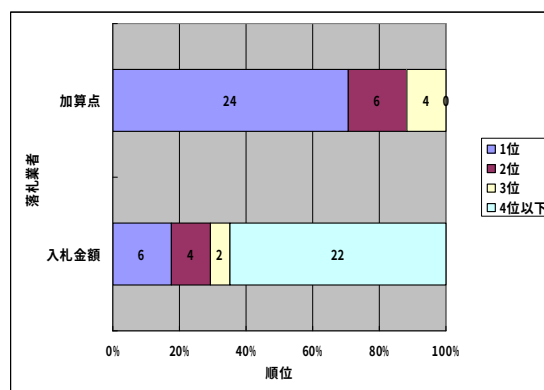


図-1 参加業者の入札金額と加算点の順位割合

2.2 工事成績評価と落札率・加算点との関係性

まず、工事成績評価と落札率・加算点との関係性を見る。工事成績評価と各指標の相関関係を表-2に示す。工事成績評価と落札率との関係よりも工事成績評価と加算点との関係が強いことがわかる。したがって、価格よりも加算点の方が工事成績評価との関連は強いが、相関係数の値からあまり相関はないといえる。

表-2 工事成績評定との相関関係

	落札率	加算点
工事成績評定との相関係数	0.00042	0.244*

**：1%水準で有意，*：5%水準で有意

2.3 工事成績評定と加算点の各項目との関係性

加算点は企業の施工能力（実績・成績・資格）、配置予定技能者の能力（実績・成績・表彰）、施工計画書（提案）の3つの項目によって構成されている。1案件ごとに各項目にはいくつかの評価項目が作成される。ここでは、工事成績評定と3つの項目との関係性を見る。工事成績評定と各項目の相関関係を表-3に示す。表-3を見ると配置予定技能者能力が有意な値を示しており、最も相関が強いことがわかる。

表-3 工事成績評定との相関関係

	企業施工能力	配置予定技能者能力	施工計画書
工事成績評定との相関係数	0.219	0.313**	0.13

2.4 工事成績評定と配置予定技能者能力との関係性

次に、工事成績評定と最も関連があった配置予定技能者の能力との関係について分析する。表-4に示すように配置予定技能者の能力に関する評点によって案件を4つのグループに分け、工事成績評定を特性値とした分散分析を行った。

表-4 配置予定技術者能力の点数区分による
工事成績評定の分散分析表

グループ	24点以下	25～49点	50～74点	75点以上
案件数	6	11	44	7
平均値	73.8	76	77.6	80.6
自由度	3			
P値	0.097			

表-4を見るとP値は統計的に有意な値を示しており、工事成績評定の平均値は配置予定技能者能力の点数の減少とともに、減少する傾向にある。

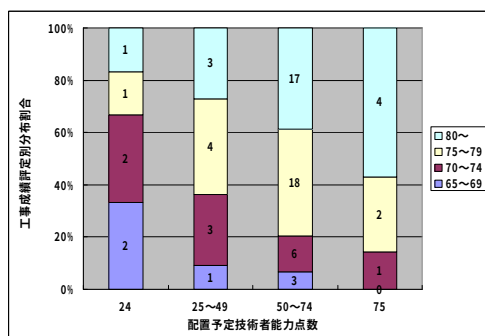


図-2 配置予定技能者能力点数別・
工事成績評定の件数割合

工事成績評定を4段階（65～69，70～74，75～79，80以上）にしたときの件数割合を配置予定技能者能力

点数グループ別に分類したものを図-2に示す。図-2より、配置予定技能者能力の点数が高くなるにつれて、工事成績評定の65～69点の割合が減少する傾向がある。また、配置予定技能者能力の点数が高くなるにつれて、工事成績評定の80点以上の割合が増大する傾向がある。しかし、配置予定技能者能力の点数が低いことは、工事成績評定65～69点の案件が多くなるという顕著な特徴であるとは必ずしもいえないことも示している。

3. 結論

本研究では、長崎県の総合評価落札方式における工事案件を対象に、工事成績評定と落札率、加算点との関係性について統計分析を行った。

工事成績評定と価格に関わる指標（落札率）との関係性と加算点との関係性を分析したところ、共に工事成績評定との相関が低いことから、現状総合評価落札方式は必ずしも工事の品質向上につながっていないと考えられる。工事成績評定と加算点の各項目との関係性を分析したところ、特に施工計画書の相関が低いことが示された。実務の現場においては、計画の作成と評価の手続きには多大な時間がかけられているが、工事の品質に対してあまり意味をなしていないという結果となった。今回は、簡易型と標準型のデータを合わせて分析を行ったが、今後のデータの蓄積に伴って、事業規模・地域性に応じたきめ細かな制度設計を検討することが課題として挙げられる。

謝辞

貴重なデータを提供して頂いた長崎県土木部建設企画課総合評価班の皆様には感謝いたします。

参考文献

- 1) 長崎県土木部,
<http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/top.htm>
(2009.10.15 閲覧)。
- 2) 伊藤弘之: 公共工事における総合評価方式の変遷と今後の課題について, マネジメント研究論文集, Vol.14, pp.215-226, 2007.
- 3) 森本恵美・滑川達・岡本太地・山中英生: 落札企業の地域性に着目した被指名実績と工事成績評定との関係に関する統計分析, 建設マネジメント研究論文集, Vol.12, pp.263-276 2007.
- 4) 平岡成明: 勝ち残るための工事成績評定マニュアル, pp.22-36, 株式会社山海堂, 2006.